

展覧会情報

企画展「仙台古地図の旅」

会場 仙台市歴史民俗資料館
電話 022-295-3956
期間 7月9日～11月3日

地図資料で見るむかしの久喜市

会場 久喜市公文書館
電話0480-22-1111
期間 8月23日～10月28日

旅してみよう千葉のむかし

ー加藤博仁氏コレクションの地図と絵葉書からー

会場 千葉市郷土博物館
電話043-222-8231
期間 8月28日～10月30日

企画展「鎖国」下の世界知識～刊行された世界図

会場 神戸市立博物館
電話078-391-0035
期間 10月8日～11月27日

特別展 坂道・ぶんきょう展

会場 文京ふるさと歴史館
電話03-3818-7221
期間 10月22日～12月4日

G空間EXPO ビジネスフォーラム2011延期

会場 パシフィコ横浜
電話 045-221-2155

2011年9月14日～16日に開催予定の「G空間EXPOビジネスフォーラム2011」は開催を中止し、2012年6月21日～23日に「G空間EXPO2012」としてパシフィコ横浜にて開催予定。

巡検開催のご案内

■ 平成23年の巡検予定

平成23年度巡検は、以下の通り開催致します。

10月15日 セミナー「井口先生の鉄道のお話し
+ミニ巡検」(参加募集中)

12月10日 「蕨巡検」

2月頃 「岩槻巡検」

・**10月15日(土)**のセミナーは「墨田区学習センター」を使い、午前中(1.5時間位)を井口悦男先生の鉄道のお

話し、その内容を受けて、午後、巡検を開催致します。

集合:9:30 東武「浅草駅」改札階段下

ルート:浅草駅→墨田区学習センター別館(セミナー)→曳舟→東向島(昼食)→鐘ヶ淵→牛田→京成関屋→青砥→京成立石→産業館(見学)→京成立石→京成曳舟→浅草(16時頃解散、ルートは予定。途中徒歩と鉄道乗車があります)

参加費:1,500円(予定:資料代、電車代等)

参加希望の方は10月3日(月)までに**03-3262-1486**かE-mail:chizujoho@coral.bforth.comまでご連絡下さい。追って開催資料をお送りします。

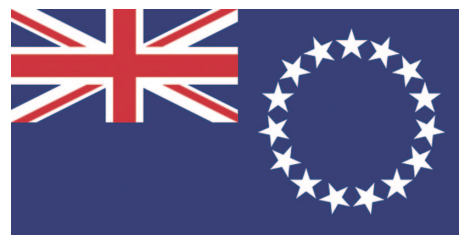
mini地図NEWS

《新国家誕生》

2011年に誕生した新国家は以下の通り。

2011年3月25日「クック諸島」を日本政府が承認。国連未加盟。国民はニュージーランド国籍を有する。面積約240km²、人口約1万3500人。日本が承認した国連未加盟国家は「コンボ」(2008年独立)以来。

2011年7月9日「南スーダン共和国」独立。スーダン共和国の南部10州がアフリカ大陸54番目の国家として分離・独立。同年9月14日国連加盟(193番目)。面積約62万km²、人口約826万人。国連加盟国家は2006年に加盟が承認された「モンテネグロ」以来、



左上がクック諸島、右下が南スーダン共和国の国旗

地図絡み

第46回 色バランス見事な2万5千分1「土地利用図」

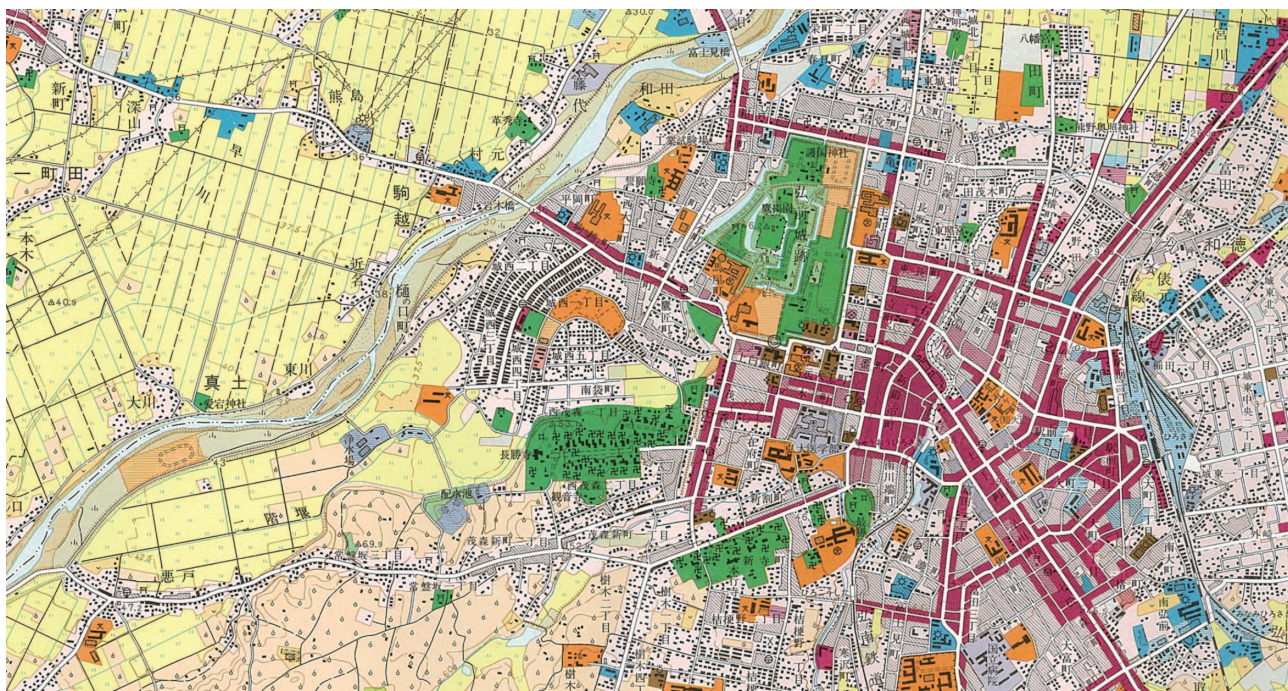
帝京大学理事 井口悦男

予算不足が、地形図一般に多色刷化を止めた、大日本帝国時代の事情。わずかに20万分1帝国図が明治30年代以降、敗戦後の20数年間の例外を除き、多色刷の孤塁を守り続けた。その上残念なことには、現在も、なお欧米の図先進国とは、色数では勝る域に達していない。

色刷方式には線によるか、面に施すか、その双方か、それぞれながら、軍用図代表の陸軍特別大演習図のうちか、大正、昭和両帝即位の大典記念京都図とか、平成の即位記念東京中心部図とか特定行事対応図のほか、幾つか代表的国立公園図が挙げられる。この外東京付近1万分1地形図の大正から昭和初期発行図に、赤を中心とする最高5色刷を見ることが出来る。国際図100万分1の色数は例外的に9色と多かった。



「国際図」



土地利用図「弘前」(昭和49年修正、昭和51年10月土地調査)

敗戦後、色刷図の試刷の機会は増えたが、以来70年近く経過したが決定版に至れない。その中で、図面数が全国的で、加刷色調から永年の集大成と見なせる作品に、昭和50年代発行2万5千分1「土地利用図」が挙げられる。改訂版も部分的に発行されている。昭和20年代の復興期に、各県委託による国土開発用の加刷図として、5万分1地形図利用「土地利用図」が各地で先駆的に見られている。ただし表面にザラツキある用紙で、必ずしも白とは言えない紙質のためか、加刷図の色調が、赤茶系に片寄る特色があり、また発行後の紙質変化で褐色化することも加わり、さらに、元来の暖色調が強化されている。

これに対し、昭和50年版では紙質の向上もあり、より平滑化された表面と、白地に経年変化が見えにくくなった。そこへ選択された各記号別色調が一新され、寒暖両系統を平均的に採用し、加刷下図の記号分布を読み取りやすい濃さを案配した加刷とし、全体的に色のメリハリ明白となる配色を工夫し、かつての図の赤茶っぽい、夕焼け現象と言える色調を乗り越えている。

防災図など現今各自治体用に作成される機会の多い図では、防災機能中心図であることから、その色調に方寄り、特定色による加刷で、かつて下図の地形図の表現が霞んだり、見えにくくなっている例が少なくない。

いかにして防災図として、日常用にも使えたいうえ、防災事項も覚えられ、双方に役立ってこそ、加刷防災図作成の、本当の意味がある。防災図としてだけ機能する特定図として畳まれてしまつては元も子もなくなる。参考に「土地利用図 弘前」(部分)を掲げておこう。(11.8.8)